



小学生のドッジボールチームには、3年～6年生12人以上で構成され、全国大会出場資格を持つD1カテゴリーと、上記人数未達の全国大会出場資格を持たないD2カテゴリーがあります。「安中ジャイアンツ」はオフィシャルチーム。「安中スピリッツ」は1～4年生で構成されるジュニアチームです。



## 安中地域の小学生ドッジボールチーム

# 『安中ジャイアンツ』

「ドッジボール競技は試合時間が5分で1セットと短く、ボールを投げる、受ける、避けるというプレーにつきます。体格の良い子は攻撃力があつたり、体格がそれほどなくてもキャッチしたり、避けたりするのが上手な子もいたり、それぞれの個性を磨いて輝くことができます。試合は、目まぐるしく攻撃と守備が入り替わるので、広い視野や早い判断力が養われます」と話す齋藤真吾監督。以前は保護者としてチームに関わってきました。2人のお父さんコーチも指導に当たります。

「一致団結」をキャッチフレーズに心・技・体に磨きをかけていきます。

練習では、1年生から6年生の男女が体格差や男女の区別なく、ボールを投げたりキャッチしたりの全力プレー。ときにボールが顔面に当たるようなことがあっても、淡々と練習を続ける姿にたくましさや、内野の横一列の陣形に新鮮な驚きを感じます。

「ドッジボールを通して子どもたちが得るものはとても大きいです。肩の力が強くなったり、持久力や瞬発力などが養われたりと、中学でどんな運動部に入部しても活躍できる基礎力がバッチリ身につきます。学力アップにつながる集中力も磨かれますよ」と話すのは保護者会の茂木慶子会長。日々の練習はもちろん、山梨や長野へと県外への遠征もあり、保護者の応援なしにはチームの活動はまなまりませんが、保護者同士で融通を利かせ合って対応しています。

男女の区別のない小学生ドッジボールで培った精神は、男女共同参画社会に生きる子どもたちの大きな力になるはずだ。

### メンバー募集中!

練習日/月・水曜/18:30～20:30、土曜/9:00～16:00  
※金曜は自主練

練習場所/安中小学校 体育館  
対象者/安中市近郊に在住の小学生  
月費用/保護者会費2000円 他  
問合せ先/茂木(090-4058-0990)  
松本(090-4849-0635)



### 1試合は5分間 1セットマッチ

『安中ジャイアンツ』は、安中エリアにある小学生のドッジボールチーム。安中市立安中小学校の体育館を練習拠点に、小学1年生から6年生まで男女24名のメンバーが練習に励んでいます。学校の体育の授業や休み時間に親しまれるイメージのあるドッジボール。改めて競技としての取組みに珍しさを感じる人も少なくないでしょう。群馬県ドッジボール協会登録の小学生チームは現在17チームあり、全国大会につながる大きな大会が春と夏に開催されています。

### 体力向上や 集中力アップに期待

「一致団結」をキャッチフレーズに心・技・体に磨きをかけていきます。

練習では、1年生から6年生の男女が体格差や男女の区別なく、ボールを投げたりキャッチしたりの全力プレー。ときにボールが顔面に当たるようなことがあっても、淡々と練習を続ける姿にたくましさや、内野の横一列の陣形に新鮮な驚きを感じます。

「ドッジボールを通して子どもたちが得るものはとても大きいです。肩の力が強くなったり、持久力や瞬発力などが養われたりと、中学でどんな運動部に入部しても活躍できる基礎力がバッチリ身につきます。学力アップにつながる集中力も磨かれますよ」と話すのは保護者会の茂木慶子会長。日々の練習はもちろん、山梨や長野へと県外への遠征もあり、保護者の応援なしにはチームの活動はまなまりませんが、保護者同士で融通を利かせ合って対応しています。

男女の区別のない小学生ドッジボールで培った精神は、男女共同参画社会に生きる子どもたちの大きな力になるはずだ。

## めざすは三年連続関東大会出場

アリーナの天井に向かって宙を舞う6つのフープ。タイミングを計りながらキャッチする6人の女子中学生たち。ここは、年間を通して安中第一中学校新体操部の練習拠点になっており、部員は学校から自転車で20分ほどかけて通っています。

県内で新体操部のある中学校は10数校と少なく、安中市内の公立中では同校のみ。顧問の橋本知信先生は、「入部してくるのは、新体操をやりたい気持ち強い子ばかり。夏の中体連は関東大会予選も兼ねていて、3位入賞で関東大会に出場できます。



リボンやフープなどの手具と呼ばれる道具を使用しながら演技を行う新体操競技。この一年の団体戦はフープの使用が決められています。



昨年と今年、団体で2年連続出場を果たしました。1・2年生たちもそこを目標に頑張っています」と話します。

日頃から橋本先生が口にするのは、「応援される人になりなさい」という言葉。校外に練習の場を提供してもらい、テクニカルな面での指導や曲の編曲などを外部コーチにお願いできる環境などにも感謝し、謙虚に努力を重ねる大切さを伝えていきます。

また、「公式大会では指導者は選手のおそばにいたいことができません。何かあっても最後は自分たちで乗り越える必要があります」と部員たちの自主性を重んじ、自ら考え行動し、気づきを心得て成長できるような指導にあたっています。

そんな橋本先生の目線の先には、大会を間近に控え演技を入念にチェックする部員たちの姿がありました。

レオニ・スポーツ・グループ  
一般社団法人LEONI SPORTS GROUP

## 本場イギリス仕込みのコーチングが 息づくサッカースクール



子どもたちがアイデアを出し合ってやってみて、アドバイスをもらって修正し、もう一度トライして納得する。こうした過程が大切にされています。



多目的グラウンドで練習しているLEONI SPORTS GROUPには、幼児から中学3年生まで、サッカー好きな子どもたちが、80数名在籍しています。

試合に出て経験を積みながら体でサッカーを覚えたいという人は「アカデミーコース」。まずは基本の技術の一つ一つしっかり身につけることから始めたいという人は「スクールコース」と、2つのコースに大別されます。

近年、公式戦で上位進出を果たしているアカデミーコースには、小学3年生以上が在籍しており、試合という実践経験を積むことで自信につながっています。また、ス

クール生の中には中学の部活で目覚ましい活躍をみせる子もいるなど、成長の仕方はさまざま。

週末のグラウンドで小学校低学年の子もたちが練習をしていました。見学の保護者が少ないことと、コーチの言葉に反応しよく笑う子どもたちの姿が印象的。「サッカーを楽しむ。一生懸命に取り組む。仲間を大事にする。学年が混ざって仲良くみんなまで成長する」というコンセプトが活動に反映されています」と、小蔵直樹副代表は話します。

代表を務めるのはトマス・ランドルさん。英国出身でプロのサッカー選手をめざしたこともありましたが怪我で断念。その後コーチ業に専念し米国・オーストラリア・日本でサッカーを教えることになりました。2010年から安中市でサッカーチームを立ち上げ、2019年に法人化。多くの子どもたちにサッカーの楽しさを伝えていきます。